

対馬産クロツバメシジミの変異について

境 良朗

対馬のクロツバメシジミ *Tongeia fischeri* (Eversmann, 1843) は、壱岐～九州北部の沿岸沿い～平戸～五島列島にかけて分布する亜種, ssp. *caudalis* (朝鮮半島亜種) に括られているが、対馬産には次のような特徴が見られる。(図1・2)

- ①前翅裏面亜外縁紋と比較して、外縁の黒紋列がよく発達し太く大きい。
- ②後翅裏面外縁の黒紋列も発達する。
- ③後翅裏面赤橙色紋は互いに融合せず、分離する。
- ④前翅表面の青白紋列は発達するが、その内側にも二重に矢じり形の青白紋が出る個体が見られる。さらに、前翅後縁付近にも青白紋列が現れる場合もある。



図1：対馬産クロツバメシジミ

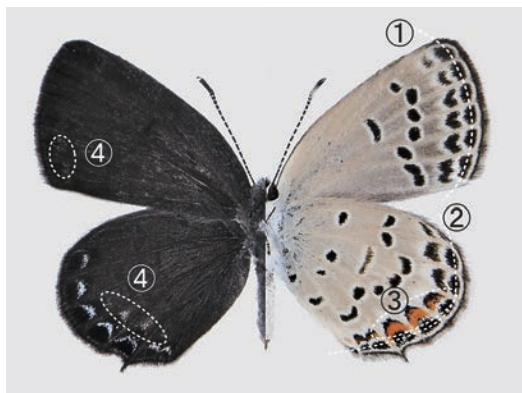


図2：対馬産の特徴

また、本種は食餌植物の違いによって裏面の地色が変化するといわれている。対馬で確認した食餌植物はツメレンゲ（基本食草）、タイトゴメ、ウンゼン（ツシマ）マンネングサ、アオノイワレンゲ（美津島町綱掛崎）、チャボツメレンゲ（白岳・竜良山）、メキシコマンネングサ（園芸種）、ミセバヤ（園芸種）、カランコエ（園芸種）などだが、発生地では複数の食餌植物が同所的に利用されていることが多く比較するのは厳しい。一般的に、ツメレンゲやウンゼン（ツシマ）マンネングサ喰いはベージュがかり、タイトゴメ、アオノイワレンゲ喰いは青みがかった灰白色っぽくなるようだ。

ここでは斑紋に焦点を当てて、今まで観察できた変異を報告する。

- 1) 裏面後翅亜外縁の赤橙色紋が黒紋に置き換わったもの

・ 1 ♀, 2011 年 6 月 19 日, 巖原町豆酛崎 (図 3)

いわゆるクロクロツと呼ばれているもので遺伝型だといわれている。九州北部にはこの型が高頻度で出現する島があるが、対馬ではこの1個体だけで追加記録は出ていない。この個体だけの変異だったのか、そのような遺伝型を持った系統がこの地でも受け継がれているのか非常に興味を持たれる。よく見ると、通常現れない所に過剰紋が出ていたり、極軽微だが左右非対称な部分も見られる。



図3：クロクロツの斑紋変異

2) 表面後翅亜外縁に赤橙色紋が現れたもの

- ・ 1 ♀, 2012 年 8 月 7 日, 巖原町久田 (図 4)
- ・ 1 ex., 2008 年 8 月 15 日羽化, 美津島町竹敷産 (図 5)

裏面の赤橙色紋が表面にも反映したものだが, 通常表面に出ることはない. 美津島町竹敷・畠浦 (メキシコマンネン)・城山 (食餌植物不明)・巖原町阿連 (ツメレンゲ)・豆酩崎 (タイトゴメ) の 5 カ所で確認した. 対馬産以外でのこのような変異は長崎南部産で見た記憶がある. この系統の母蝶から採卵飼育した結果, ほとんどの個体で赤橙色紋が現れたので遺伝的な形質なのかもしれない.



図 4 : 赤橙色紋出現個体



図 5 : 赤橙色紋出現個体 (表面)

3) 翅表後翅の青白紋が前翅亜外縁まで広がったもの

一般的に第 1 化の個体は青白紋が発達する傾向がある. 二重に出ることもあるが, 前翅亜外縁にまでここまで広がるのは非常に珍しい. 図 6・7 は残念ながら擦れた個体だった. ここでの食餌植物はツメレンゲ・ウンゼン (ツシマ) マンネングサ・タイトゴメが混在しているので, 何を食べて育ったのかは特定できない.

豆酩崎の個体はタイトゴメ喰いである.

- ・ 2007 年 4 月 14 日, 上対馬町鰐浦 (図 6・7)
- ・ 2013 年 5 月 2 日, 巖原町豆酩崎 (図 8)



図 6 : 青白紋が発達した個体



図 7 : 青白紋が発達した個体 (表面)

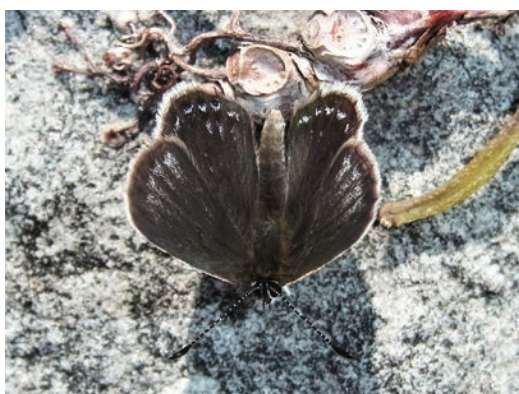


図 8 : 青白紋が発達した個体

4) 対馬産の個体とは思えない斑紋パターンのもの

- ・ 1 ex., 2008 年 4 月 20 日, 峰町志越 (図 9)

この個体は静止状態の時に違和感を感じたので採集

した。標本にしてみると、違和感の原因が翅形にあったことがわかる。前翅外縁が直線的で翅頂が尖って見える。同様の翅形をした別個体も得られたが翅形形質も遺伝するのだろうか。斑紋では亜外縁の黒紋列が発達して対馬産とは逆パターンであることその他、斑紋が一部消失したり後翅亜外縁内側の斑紋が減衰したりしている。

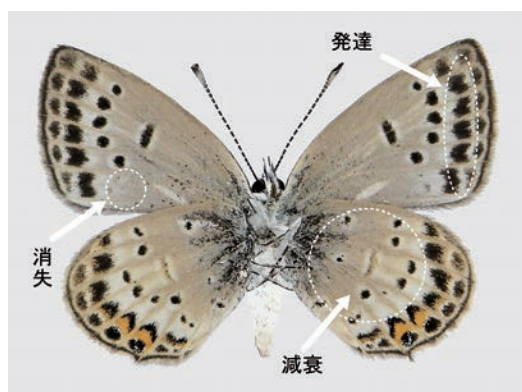


図9：特別な斑紋パターンの個体

5) 過剰紋が現れたもの

裏面前翅中室付近に過剰紋が出ている。上対馬町豊、豊玉町貝鮒、厳原町豆酸崎の各地でも同様の変異を確認した。

- ・lex.目撃，2012年4月14日，美津島町大船越（綱掛崎）（図10）
- ・lex.，2008年4月20日，峰町志越（図11）



図10：過剰紋が現れた個体



図11：過剰紋が現れた個体

斑紋変異について顕著なものを取り上げた。クロツバメシジミは地域毎の変異（亜種）だけでなく、このような同一亜種内あるいは対馬というような狭い範囲内においても様々な斑紋変異が見られ楽しむことができる。全国的に本種の愛好者が多い所以であろう。

対馬の属する亜種（朝鮮半島亜種）については、同じ亜種の韓国釜山の画像をwebサイトで見たが別系統に見えて仕方がない。韓国南部の個体は甌島～上五島にかけての個体群に近いように見えるのは私だけだろうか。ssp. *caudalis* も再検討が必要なのかもしれない。

最後に、対馬産の特徴がデフォルメしたように端的に現れた個体を紹介したい。



図12：対馬産の特徴が強く現れた個体

- ・lex.，2008年8月9日，上対馬町鰯浦（図12）
- 変異もここまでくれば言葉がない。